

日時・場所	令和元年12月17日(火) 15:00~17:30 高松市医師会館
参加者	受講者40名 行政担当者6名
内容	<p>【テーマ】認知症高齢者のコーディネーション</p> <p>情報提供：認知症高齢者のマネジメントのポイント 村富秀章 氏(第3期生) 認知症高齢者が利用できるサービス 山川民代 氏(第2期生)</p> <p>事例検討：認知症高齢者事例</p>
結果	<p>情報提供：</p> <p>1. 認知症高齢者のマネジメントのポイント</p> <ul style="list-style-type: none">・認知症の方の状況について 年々増加している事の説明、認知症基本法法案概要の説明。・認知症の特徴についての説明。 「認知機能障害」「生活機能障害」「社会的孤立」「身体疾患」「行動心理症状」「介護者の疲弊」が重なり合っている。複雑化のプロセスは初期段階に起こる。・認知症の病態に応じた適時・適切な医療介護の提供方法について 本人主体の医療介護、発症予防の推進、早期診断・早期対応のための体制整備・医療法人社団以和貴会が実施している認知症の治療や介護支援サービスの紹介・認知症治療の実際 「受診につながるまで」「診断を受ける際の流れ」「診断結果・診察後の処遇」を説明・コーディネートを行う上での留意点を説明 「疾患の理解をしっかりと十分にもつこと」「治療方法について理解し、医療との連携を適切に行える事」「介護者の支援にも取り組むこと」「地域全体で支えていく事」・私たちができることとして 「その人らしく生活ができるために」という視点を忘れないこと 「一回一回の相談支援機会を重要と考える。少しでもプラスとなる事があれば介護への取り組みも変化する事を意識しながらの支援を」 <p>2. 認知症高齢者が利用できるサービス</p> <p>①サービス種類別社会資源について説明 介護保険サービス・医療サービス・介護保険施設以外の施設・地域支援事業等のサービスのそれぞれの利点や注意する点を説明した。</p> <p>②在宅での認知症ケアについてなかなかサービスに繋がらなかった事例をあげて、以下の支援のポイントを説明。認知症の高齢者が実際に自宅でどんな暮らしをしているのか本人や自宅の状況を伝え、支援を拒む人に対してどのようなアプローチをしたかも話した。</p> <ul style="list-style-type: none">・認知症の治療を適切なタイミングで専門医につなげるには、かかりつけ医の存在の有無が重要。進行する前に地域でサポート体制を整える必要がある。・支援を受け入れてもらえない人には、信頼関係を作ることから始め、タイミングを計ってサービスを開始する。・生活歴、人間関係、得意なことや好きなこと、価値観、毎日の習慣など知り、「その人らし

い」生活が維持できるように支援する。

- ・なじみのある人間関係を大切に、家族や地域社会との関係を継続できるようにサービスを組み込む。リロケーションダメージを少なく。
- ・周りの印象や考えで決めず、今の本人の思いを大切にしたケアを提供する。
- ・認知症の人の言葉や行動の原因や理由は何か？気づきを共有し、関わる支援者がチームで見極める。
- ・認知症の人には「心地よい」と感じるケアを笑顔で提供し、良い感情記憶を残す。
- ・家族に対して普段の介護の労を労うことが受診やサービスにもつながりやすい。